

(財)2007年ユニバーサル技能五輪国際大会日本組織委員会 事務局長
大久保 良香



2007年ユニバーサル 技能五輪国際大会11月に開幕！

2007年（平成19年）11月に静岡県で「第39回技能五輪国際大会」と「第7回国際アビリンピック」が大会史上初めて同時に「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」として、いよいよ開幕する。技能五輪国際大会は1985年（昭和60年）に大阪で、国際アビリンピックは1981年東京で開催されて以来、日本で開催はそれぞれ四半世紀年ぶりになる。

技能五輪国際大会は、22歳以下（一部の職種を除く）の各国・地域の青年技能者が技能を競うことにより参加国の職業訓練および技能水準の向上を図ることを目的とした大会で、1950年に第1回が開催された。近年は、原則2年に一度開催されており、参加選手数の累計は、1万人を超える。

国際アビリンピックは、障害のある人の職業的自立の増進と職業技能の向上を図るとともに、障害者雇用に対する社会一般の理解を深め、また、国際親善を図ることを目的として技能競技、国際会議等を実施するものであり、1981年第1回が東京で開催されて以来、おおむね4年に一度開催されている。

今回、「第39回技能五輪国際大会」には、46の国・地域が、「第7回国際アビリンピック」には、29の国・地域が参加し、1,200人を超える選手が世界一を目指してその持てる技能を競う。

いわゆる「2007年問題」による技能の継承が懸念されている現在、このような大会が日本で開催されることの意義は大きい。地元静岡県を中心に4万人を超える小中学校生、高等学校生らが、技能五輪国際大会、国際アビリンピックの競技会場を見学する予定であり、当組織委員会では、事前学習用の教材やパンフレットなどを用意して、これら次世代を担う若者に技能の重要性とすばらしさを訴えてきた。

また、技能五輪会場においては各職種に職種解説員の配置、競技映像を流すモニタを設置し、競技をよりわかりやすく見学できるように工夫を凝らしている。ぜひとも多くの方々にご来場いただき、社会経済の発展を支える世界の技をご覧いただきたいと考えている。

わが国からは、技能五輪国際大会には51名、国際アビリンピックには82名の代表選手がエントリーしている。いずれも過去最大の選手団であり、日本の若い匠、障害のある技能者の活躍が期待される。

そして何よりも、技能の魅力や技能者育成の重要性を次世代を担う若者を含め、国内外に広くアピールするとともに、障害の有無にかかわらない技能のすばらしさと、だれもが人格と個性を尊重し、社会の構成員として支えあい責任を分かち合うユニバーサル社会の実現に寄与することにより、日本と世界の明日につながる新たな1ページを開いていきたいと考えている。

(詳しい大会情報は：当組織委員会HP

(<http://www.skillsfestival2007.or.jp/jp/index.html>)

またはものづくり情報ネット

(<http://www.mono.skillsfestival2007.or.jp/>)

おおくぼ よしか

略歴

1970年3月 東京大学法学部卒業
1970年4月 労働省入省
1980年4月 労働基準局安全衛生部計画課長補佐
1983年4月 欧州共同体日本政府代表部一等書記官
1989年8月 労政局労政課長
1996年4月 神奈川労働基準局長
1998年6月 労働研修所長
2000年8月 辞職
2003年7月 中央職業能力開発協会常務理事（現職）
2005年4月 (財)2007年ユニバーサル技能五輪国際大会
日本組織委員会事務局長（現職）